

JCSM

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全科協 NEWS

vol.43 No.3

平成25年5月1日発行 通巻第250号

全国科学博物館協議会

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

TEL 03-5814-9863

FAX 03-5814-9898

<http://www.jcsm.kahaku.go.jp>

Contents

理事長就任挨拶	2
全国科学博物館協議会の40年とこれから	3
海外博物館事情	10
5月6月の特別展等	12
リニューアル情報	14
トピックス	16



理事長就任挨拶



林 良博

近藤信司前理事長の後を受け、本年4月1日より全国科学博物館協議会の理事長に就任しました林良博です。

全国科学博物館協議会（以下、全科協）は、昭和46年に再発足して以来、自然史系の博物館・科学館を中心に、多様な館園が加盟する42年の歴史をもつ協議会であり、これまで様々な活動を展開してきたと伺っております。

しかし、近年の科学博物館の置かれている状況、社会に果たすべき使命は大きく変わってきています。たとえば生物多様性保全に対する社会の期待の高まり、地球温暖化に対する正確な科学的知識の発信、さらに福島第一原子力発電所事故に端を発する科学技術に対する倫理的問題の解決など、我が国だけでなく地球規模での問題に対して、私たち科学博物館はそれぞれの加盟館園が単独で解決するにはあまりにも大きな課題を抱えており、全科協が力を合わせて取り組むべき時代になりました。

すでに東日本大震災の被災地における救援活動において、現地の関係者と全国の博物館関係者との両者によって献身的な活動が進められ、博物館相互の連携協調が高まっているなか、従来にも増して全科協に対する期待が大きくなっております。

昨年度からは、全科協に活性化ワーキンググループが組織され、加盟館園の皆様の積極的な協力のもと、より魅力ある組織作りを目指して検討が進められています。こうした検討を通じて、全科協の組織としてのあり方や魅力向上の具体策が提示されると思いますので、短期的に実現できるものはすぐさま着手し、長期間を要する課題については着実に布石を打つなど、加盟館園の皆様の期待に応えつつ、より多くの館園に加盟いただける組織となるよう努めて参ります。

加盟館園の皆様におかれましては、これまで以上に全科協の活動にご理解を賜りますとともに、加盟館園の相互の連携を強めていくためにご尽力いただきますようお願いいたします。

全国科学博物館協議会の40年とこれから

全科協ニュースは、昭和46年（1971年）8月に第1号を発刊してから本号で通巻250号を迎える。

第1号の冒頭で、初代全国科学博物館協議会理事長の福田繁国立科学博物館館長は、次のようなメッセージを出されている。

40年前から科学博物館の置かれている状況は大きく変わってきているが、現在の全科協会に定められている「相互の連絡協調を密にして博物館事業の振興に寄与する」という目的が、設立当時から一貫して受け継がれて来ていることを改めて振り返ることが出来る。

また、福田繁理事長は、「私どもは初心に返ってこれらの問題の一つずつ取り組んでいきたい」といっており、脈々と社会に根ざした活動を行ってきた「科学博物館」がその使命を果たすために、協議会という枠組み全体で一丸となって、当時の社会状況下にあるさまざまな問題を解決していく決意を表明している。

通巻250号を迎えるに当たり、改めて全科協の40年を振り返り、今後の全科協の向かうべき方向やそれぞれの館園がどうあるべきかを考える一助になれば幸いである。

（全科協ニュース通巻第1号より抜粋）

今日学術研究の面において、また社会教育の面において科学博物館の役割が再認識されてきております。その証拠に最近新しい科学博物館があちこちに設立されています。また既存の科学博物館においても観覧者の数が漸次増加しつつあります。このことは地域社会において科学博物館を必要とする声が高まってきたためだと思います。

私ども科学博物館に働く者はこの国民の要望に応え、科学博物館の使命の達成に一層の努力を傾ける責任があると思います。

今までの全科協は少し冬眠が長すぎたと思います。今後新しく発足した全科協は、科学博物館の活動をより積極的に促進するためにたくさんの問題を抱えています。私どもは初心に返ってこれらの問題の一つずつ取り組んでいきたいと思います。

全科協はわれわれ科学博物館に働く者にとってお互いの情報交換のための共通の広場であり、またお互いが日常の博物館活動について研鑽を積む共通の土俵でもあると思います。このような役割を十分に果たす全科協に育てていかなければならないと考えます。

全科協の皆さん、お互いに協力一致して立派な全科協に育てるよう格段のご尽力をお願いします。



福田 繁 理事長



Vol. 1 No. 1 表紙

1970年代から1980年代は、高度成長期から安定成長期への移行期であるとともに、一億総中流といわれる時期でもあったことを反映して、科学博物館の使命が地域社会それぞれで体感される時代であったことを背景として、県立博物館新設が盛んに行われ、市町村立博物館や美術館が矢継ぎ早に設立された時期である。

全国科学博物館協議会は、昭和42年（1967年）6月に科学博物館の相互連携を密にし、科学博物館事業の振興を図ることを目的として設立された。

新たな博物館の設置により、先発する博物館の経験の共有や博物館を支える職員の育成など、各博物館個別には解決できない問題を解決していく必要性が高かったことが発足の大きな要因として考えられるとともに、全国的な博物館事業の普及に伴う国民のニーズの平準化の必要性、つまり、点から面へと博物館事業が変遷することが求められた時代といえるかもしれない。

その後、協議会の在り方についての数次の議論を経て、入会制度、会費制度、実施事業等を会則で明確化し、さらなる発展をするため1971年6月に再発足した。

昭和46年（1971年）6月当初は、41の加盟館園でスタートし、全科協ニュースの発刊、博物館事業研究会や博物館職員講習などさまざまな事業が開始された。



第1回総会の様子（全科協ニュースVol.1 No.1より）



ドイツ博物館正面玄関前で、全員の記念撮影
昭和62年10月21日～11月1日（欧州科学系博物館視察研修）
（全科協ニュースVol.18 No.2より）

（全国科学博物館協議会の再発足当初の会則：抜粋）

第四条

本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 一 調査、研究及び情報の交換
- 二 資料、文献等の交換及び借借の斡旋
- 三 研究会、講演会等の開催
- 四 自然史および理工系博物館に関する普及広報
- 五 機関誌の発行および研究成果の発表
- 六 その他博物館事業振興に必要な事業

創刊以降の全科協ニュースの掲載記事としては、各加盟館園の紹介記事やその当時の各加盟館園共通の問題に関する取組例などが紹介されており、相互連携を密にするための基本的な役割を担っていたことが伺える。

また、当時はなかなか入手できなかったと思われる海外の博物館についての情報などが掲載されており、当時から国際的な活動への関心が高かったことも伺える。

昭和58年（1983年）には海外科学系博物館視察研修

小型ヒューマノイドロボット

NAO
INTERACTIVE HUMANOID ROBOT

音声認識で
「こんにちは！」

2足歩行
ロボット

ふれ合う
楽しさ

研究開発者に多く使われている2足歩行のヒューマノイドロボットです。福祉・医療・展示などで触れたり仕草を見たり楽しむ事ができます。

お問い合わせは
TEL : 03-5952-9391
http://www.revast.co.jp
E-mail : revast-pdc@revast.co.jp FAX : 03-5952-9361

国内代理店
株式会社 **リバスト**
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-68-12

※NAOはフランスのアルデバラン社の製品であり製品名です

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本



地学標本／化

／レプリカ ・ 模型

恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL_03(3354)0131(代表)◆

TEL_03-3350-6725 FAX_03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail: info@tokyo-science.co.jp

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

が開始され、従来、全科協ニュースなど一部でしか知る機会がなかった海外の情報も、加盟館園の現場で活躍される方々に広く知る機会が提供されることとなった。

1990年代に入ると、バブルの崩壊を契機とした、経済の低迷による博物館施設の財政的な状況悪化もあり、加盟館園の増加も頭打ちとなり、平成12年（2000年）をピークに減少に転じている。

一方でこの時期は、博物館事業の高度化についてのニーズも高まってきた時期であり、平成5年（1993年）4月の全科協総会では、事業の改善、拡充について検討された。その結果、博物館の管理・運営に関する専門的・実践的研修として、博物館職員現職研修（ミュージアム・マネジメント研修）の開始（平成5年11月から）による博物館経営に関する支援、研究発表大会（平成6年3月から）の開始や科学系博物館資料情報のネットワークに関する調査研究など学芸員の研究活動の支援、巡回展に関する準備調査など、次々と事業が開始された。



Vol.23 No.2 表紙

その後、平成11年（1999年）の独立行政法人通則法の制定、平成15年（2003年）の地方自治法の一部改正

などにより、国立、公立の博物館の法人化が進められ、指定管理者制度の導入などによる科学博物館の在り方にも大きな変化が見られる時期となった。

全科協ニュースもこの時期になると、学校教育との連携、障害者への対応、観光地の博物館など多様性の中での科学博物館の在り方、加盟館園単独の活動というよりは、学校や他の博物館などとの連携についてのテーマが多くあがっており、基本的に具備すべき共通の博物館機能と各加盟館園の地理的環境や設置目的に着眼した在り方が問われる時代となってきた。

全科協では、平成24年（2012年）から全科協加盟館園への魅力向上、既存事業の改善充実方策の検討など活性化方策を検討するためのワーキンググループを設置し、検討を開始した。

これまでの全科協の事業については、大幅な見直しだけでなく、逐次改善が図られてきたところではあるが、実に20年ぶりの事業の改善充実へ向けての検討が開始されたところである。

振り返ってみると、全科協の加盟館園を取り巻く地域社会のニーズや加盟館園自体のニーズに対して、時機を得た活動として種々変遷してきていることが見て取れるが、昨今の科学博物館を取り巻く環境の変化が加速していくなかで、全科協の果たす役割も大きく変わってきており、これからの科学博物館の使命の達成に向けた役割も一層大きくなっていくことが予想される。

冒頭の福田繁理事長の「全科協の皆さん」に対する呼びかけを個々の加盟館園の皆様が改めて念頭に置くことが改めて大きな意味を持つことになるのかもしれない。

国立科学博物館連携協力課長・本紙編集委員
高尾 敏史

Panasonic
ideas for life

パナソニックだから、
可能なソリューションがある。

Core Products

- Security
- Cross Media
- Mobility

Total Solution

- コンサルティング営業
- SI・アプリケーション開発
- 施工・設置
- 保守・メンテナンスサービス
- 運用サービス

apan

Challenge to Change! パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
詳しくはホームページで panasonic.co.jp/pss/pssj/

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の
標本及び模型を探しご案内いたします —

マラウイサウルス
ティタノサウルス科
全長—10m

株式会社 ゼネラルサイエンス コーポレーション
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL: 03(3583)0731 / FAX: 03(3584)6247
e-mail: sizensi@shibayama.co.jp
<http://www.shibayama.co.jp>

全科協ニュース 記事あれこれ
—事務局のつづやき—

全科協発足と共に創刊された全科協ニュース。B5版、6ページの創刊号では、新発足までの経過を語る記事などが掲載され、あとがきには「みなさんの力を借りて、科学博物館の運営の実際に役立つニュースとなるよう、努力したいと思っています」とあり、加盟館園の相互連携を密にする記事づくりの意気込みが伺える。

近年の全科協ニュースはPDFファイルにして全科協ホームページで公開しているが、過去のニュースは事務局で1部ずつ保管しているだけの状態である。今後、創刊号から随時PDFファイルとしても保存し、アーカイブ化していく予定である。記事の詳しい内容はこのアーカイブ化をお待ちいただくこととして、ここでは、現在の全科協ニュースにはない記事を中心に回顧してみたい。



Vol.2 No.3に「全国科学博物館協議会に期待する」というタイトルで、加盟館園の方に全科協事業についての提案などをさせていただき記事が掲載された。No.4、No.5

と2名ずつ寄稿いただいた後、「このコーナーの標題が堅すぎるという意見がありますので、次回より、『全科協北から南から』（仮称）のようなコーナーとして、気軽にどんなことでも自由にご投稿いただける欄としたいと思います」として表題変更の予告がなされている。No.6からは「全科協“北から南から”」という表題になり、投稿記事の最後にはまた事務局から「次回は貴方が指名されるかもしれません。このコーナーは、全科協加盟館園職員の皆様から、リレー式でご寄稿いただくコーナーです。ご寄稿になった方は次の寄稿者をご指名になる権利があります。指名された方は、随筆、書評、ご意見何でもご寄稿下さい」とお知らせが入り、投稿者が次の投稿者を指名する、という試みがなされている。その後、実際にどのように投稿者を指名していったのか定かではないが、「環境問題と自然史の立場」「自然保護と自然史資料の収集について」「子供達に豊富な体験学習を」「理工学館の学芸員とは」など問題提起や自館の取り組みが紹介されている。

年頭には理事長の挨拶に続き、加盟館園の館・園長から新年の挨拶をいただいている。Vol.2では顔写真付き、Vol.3、Vol.4では手書きで寄せられていて、なかなか趣深いのが、原稿を集めるのが大変だったのでは…、と思う。この年頭の挨拶は、A4版に改訂される平成5年まで続く。



最先端3D天文シミュレーションと
高解像度+高コントラスト映像によるクラス最高のフルドーム映写システム!!

MEDIAGLOBE-III (メディアグローブIII)

「メディアグローブIII」は定評のあるコンパクトな本体設計を受け継ぎながら、小型ドーム対応した単眼映写方式においてトップレベルの解像度（ドーム直径方向1536ピクセル）とコントラスト比（最大200,000:1）を実現しています。映写品質を決定づける映写レンズには、コニカミノルタの優れた光学技術駆使した新開発のドーム映写専用高精細フィッシュアイレンズを搭載。さらに新機能として「映像歪み補正機能」を採用しており、「メディアグローブIII」本体をドーム内の壁面近くに設置しても、映写映像を電子的に補正することでドームスクリーン全体に正確な全天周映像を映写いたします。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社
東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8
URL: <http://pla.konicaminolta.jp>

TEL (03) 5985-1711
TEL (06) 6110-0570
TEL (0533) 89-3570

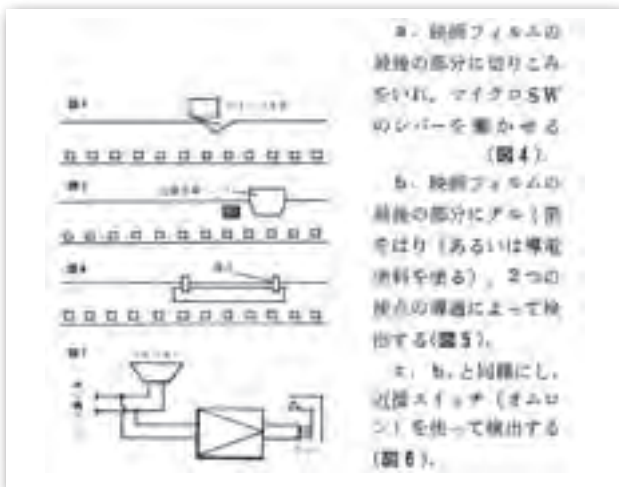
NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、
が溢れています。

Prosperity Creator
NOMURA
<http://www.nomurakougei.co.jp>

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン、設計、制作施工
株式会社 **乃村工藝社**
本社: 東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171 (代表) 〒135-8622
営業拠点: 札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・北京・上海
シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

Vol.2 No.1のあとがきに「わからないことは、みんなで相談していくことが博物館をよくする近道だと思いません。(中略)編集部でも疑問の解決に飛びまわります。」とあり、この号からニュース紙上で相互交流を図る企画が始まった。Vol.2 No.6の「見学者が押しボタンなどにより、いつでも自由に映画フィルム(映像)などを見られるような装置を展示したい」という質問には、図解入りで非常に具体的な解説がなされている。この質問には、後の号で別の方法についても紹介されている。



このように科学博物館ならではの質問に科学博物館の職員が答える記事は、全科協ニュースの役割を深めるものであったと思われる。

あとがきを拾ってみるのもおもしろい。

「この号は掲載記事の種類が少なくすんでしまいました。『特別展報告』『質問コーナー』『お願いコーナー』などの投稿がないのもっとご利用いただきたいと思えます」(Vol.2 No.3)。「このニュースは会員館園職員皆様の連絡誌でもありますので、(中略)どうぞひとりでも多くご気軽にこのニュースをご利用いただき投稿されるよう重ねてご協力をお願いします」(Vol.4 No.2)。「この

ニュースも昨年来の狂乱物価のあおりをうけ、頭を痛めています。なお、一層の努力をしたいと思っておりますので、原稿ならびに情報の提供等みなさまのご協力をお願いします」(Vol.4 No.3)。狂乱物価の影響まで持ち出すほど、原稿集めに苦慮していたことが伺える。

Vol.10 No.5のあとがきに突如として「次の方々に今年度のニュース編集委員をお願いすることになりました」と編集委員紹介が登場する。都内の加盟館園職員7名をお願いしていたようである。それまでニュースのあとがきに「編集委員会」「編集部」などの名前で登場してはいたが、実態はナゾであった。Vol.10 No.6では「9月11日に東京都児童会館の会議室をお借りして、本ニュースの編集委員会を開きました。(中略)雰囲気が変わったため新しいアイデアが続出し、今後のニュースの充実は明るい見通しです」とある。しかしながら、その号は、原稿が間に合わなかったりで4ページの縮小版になってしまっている…。

平成5年の総会で、事業の改善、拡充について検討され、次々と新しい事業が開始された。それにあわせ、全科協ニュースもA4版へのリニューアルが図られ、特集記事の執筆等、編集事務を加盟館園の持ち回りで行うこととなった。これは、平成11年に再度編集委員会が設置されるまで続く。

B5版時代を中心に振り返ってみた。創刊から40余年、特集記事のテーマを拾っていくと、その時代の社会情勢を的確に反映していることも伺える。250号を機にリニューアルした全科協ニュースでも皆様に役立つ情報をお届けできるよう努めたい。



こころを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

Tanseisha

株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2
TEL.03-3836-7221(代表) <http://www.tanseisha.co.jp>
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

1995年 平成7年 11月 8月	1997年 平成9年 4月	1998年 平成10年 1月	1999年 平成11年 4月	2000年 平成12年	2005年 平成17年 1月	2012年 平成24年 10月
科学系博物館における新メディアの活用・開発に関する調査研究(石橋財団助成金) 巡回展等実施準備調査 【平成6年～7年】	科学系博物館における展示活動における展示活動に 関する国際比較研究(文部省委嘱事業) 【平成9年～10年】	科学系博物館活用ネットワーク推進事業 (文部省委嘱事業) 【平成9年～11年】	「全科協ニュース」デザインリニューアル 当初は、文部省委嘱事業「科学系博物館ネットワークを活用した博物館活動推進事業」として制作・実施	「全科協ニュース」編集委員会設置	科学系博物館における教育普及事業に関する調査研究 【平成12年～16年】	「全科協ニュース」通巻200号発行 全科協活性化ワーキンググループ 開催

8

8

4

6

7

5

「全科協データブック1996」刊行

第7回研究発表大会

第4回研究発表大会

ミュージアムマネジメント研修

平成11年7月
独立行政法人通則法制定
国立科学博物館の独立行政法人化をはじめ、博物館の法人化が進むこととなった。

平成15年9月
地方自治法の一部改正 施行
指定管理者制度の導入

平成20年6月
博物館法改正



1967年 昭和42年 6月

全国科学博物館協議会結成
第15回全国博物館大会(於 名古屋市教育館)において
全国科学博物館協議会結成

1971年 昭和46年 6月

全国科学博物館協議会再発足・第1回総会開催
科学系博物館の連絡組織としての必要性の再認識、
各種事業の専門的事項についての相互の連絡機関と
して発展させることを目的として再発足

8月
11月～12月

「全科協ニュース」第1号発行
第1回博物館事業研究会開催

1

1972年 昭和47年 7月～8月

第1回博物館職員講習(学芸員専門研修)開催

2

1980年 昭和55年 6月

「科学博物館への招待」刊行
昭和54年度事業 各会員館から寄せられた原稿により
各館を一般の利用者に紹介する本。
分野別の検索表や一覧表も掲載。定価1000円。

3

1983年 昭和58年 11月～12月

第1回海外科学系博物館視察研修実施

1988年 昭和63年 3月

「全科協ニュース」通巻100号発行

1993年 平成5年 3月

「全科協データブック1993」刊行
全科協総会において事業の改善、拡充について検討
「全科協ニュース」A4版に改訂
「全科協ニュース」編集委員制となる
編集委員会により編集事務を分担

9月

科学系博物館資料情報のネットワーク化に関する調査研究
(石橋財団助成、文部省補助金)【平成5年～7年】

11月～12月

第1回博物館職員現職研修
(ミュージアム・マネージメント研修)実施

4
5

1994年 平成6年 3月

第1回研究発表大会 開催
会場 名古屋市科学館(東京以外での初開催)
科学系博物館等における公開天文台情報の
活用に関する調査研究(文部省委嘱事業)
【平成6年～8年】

6
7

◇1970年代

県立博物館新設ブーム



「全科協ニュース」第1号発行

昭和48年

「公立博物館の設置及び運営に
関する基準」告示

◇1980年代

市町村立博物館・企業博物館
新設ブーム

平成3年12月

博物館法制定40周年記念式典挙行

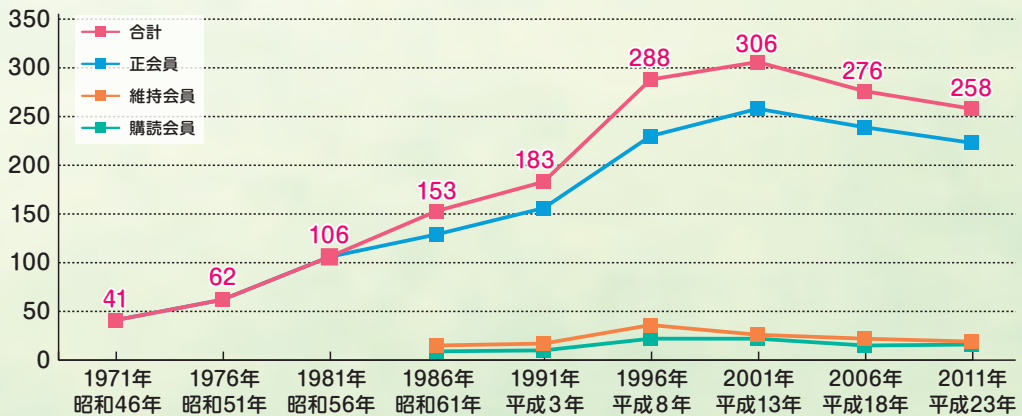


第1回博物館事業研究会開催



「科学博物館への招待」刊行

加盟館園数の推移





■ 大震災の記憶の継承

カンタベリー大震災展を、クライストチャーチで開催

「カンタベリー大地震」は2011年2月22日12時51分(現地時間)にニュージーランドのカンタベリー地方で発生したマグニチュード6.1の大規模地震であり、震源地のクライストチャーチでは観測史上最大規模の液状化現象が発生し、市中心部のクライストチャーチ大聖堂の塔が崩壊するなど、市内で多くの家屋が被害を受けた。現在、カンタベリー大地震の地震発生二周年を記念して、クライストチャーチの中心部に設けられた仮設の展示館で、被災当時の状況とその後の復旧復興を紹介した企画展が開催されている。同展では、博覧会でよく使われるマルチメディア演出が駆使され、地震の発生とともに起きた広範囲の液状化現象やニュージーランドに多い火山活動のメカニズムが紹介されている。また被災地域の住民の不屈の精神を紹介した映像や、救助隊が撮った初公開の写真も紹介されている。さらに地震の揺れで落下したクライストチャーチ大聖堂の先塔部分等の実物も紹介されている。

監修：カンタベリー博物館

会期：2013年2月15日～2015年6月28日

Quake City.

Canterbury Museum, Christchurch, New Zealand.

<http://www.quakecity.co.nz>

■ 新設館

米グリーンポートで、消防艇博物館が開館へ

ニューヨーク市消防局で2010年に現役を退いた消防艇が、2013年1月に民間団体に払い下げられ、2014年夏にニューヨーク州のロングアイランド島のグリーンポート市のウォーターフロントで繋留された博物館船として公開されるようだ。1937年に竣工したこの消防艇「ザ・ファイアーファイター」は、ニューヨーク市周辺で発生した多くの海上火災で活躍し、2001年9月11日に発生した同時多発テロでも活躍している。老朽化の為に引退を余儀なくされ、スクラップになるところだったが、ニューヨーク市消防局の現職の消防士の協力もあって、同船の保存を望む民間団体に250ドルで払い下げられた。全長が約44mの船体は、時間をかけて整備されたあとに、早ければ9月11日までに一般公開にこぎつけたいようだ。グリーンポートは、ニューヨーク

市からほぼ200キロ東離れた場所にあり、夏の保養地として知られている。またかつては捕鯨基地や牡蠣の加工産業として栄えたこともあるグリーンポートは、今では米国有数の観光地で、世界有数の経済誌「フォーブズ」によって「米国で最も美しい町のひとつ」(2011年)や、米ヨットマガジン誌に全米で「最も人気が高い50ヶ所のヨットの寄港地のひとつ」(2012年)に選ばれたことがある。

The Fire Fighter.

The Fire Fighter Museum, Greenport NY.

<http://fireboatfirefighter.org/>

<http://gcaptain.com/fdny-fireboat-fire-fighter/>

■ リニューアル

香港海事博物館が移転・リニューアル開館

2004年に香港島のスタンレー地区に開館した香港海事博物館は、ビクトリア・ハーバーを挟んで賑やかな九龍地区の対岸の埠頭に移転し、2013年2月25日に公開が始まった。15室の展示室からなる新しい常設展示では、香港の海事史が紹介されている。公有地に完成した新しい建物の総工費130万香港ドルは香港特別行政区政府より支出され、他に収蔵品の収集に民間から90万香港ドルが寄付された。

所在地：香港島の中環8号渡輪碼頭

香港海事博物館 Hong Kong Maritime Museum.

<http://www.hkmaritimemuseum.org/>

■ 企画展・特別展

ロシアに落下した隕石を、ウラル国立地質博物館で公開

2013年2月15日の現地時間9時20分頃にロシア連邦ウラル連邦管区のチェリャビンスク州付近で発生した隕石の落下は記憶に新しい。落下した隕石の破片は、隣のスヴェルドロフスク州の州都エカテリンブルク市のウラル国立鉱山大学のキャンパス内にあるウラル国立地質博物館(1937年設立)で2013年3月22日に公開が始まった。同館では隕石の落下が多いウラル地方で発見された隕石の破片40点が展示されており、クナシャク隕石(1943年落下)やスヴェルドロフスク隕石(1985年落下)も含まれている。

Ural State Geological Museum, Yekaterinburg.

<http://www.ursmu.ru/english/geological-museum/history-of-the-museum.html>

http://www.youtube.com/watch?v=tq02C_3FvFo

フィールド自然史博物館で、発光生物展を開催

オワンクラゲは、ヒドロ虫綱に属するクラゲの仲間であり、日本各地の沿岸で見られる。このどこにでもいそうなクラゲの発光のメカニズムの解明で、下村脩博士（米ポストン大学名誉教授）は2008年のノーベル化学賞を受賞し、世界の脚光を浴びた。この研究をはじめ、発光するクラゲを含む自然界の発光生物の生態と発光のしくみを紹介した巡回展が、フィールド自然史博物館（シカゴ）で開催される。同展は、アメリカ自然史博物館（ニューヨーク）が企画制作し、同館を皮切りにカナダ自然博物館（オタワ）で巡回してきた。

会期：2013年5月7日～2014年1月5日

Creatures of Light: Nature's Bioluminescence.

The Field Museum, Chicago.

<http://fieldmuseum.org/happening/exhibits/creatures-light-natures-bioluminescenc>

<http://www.amnh.org/exhibitions/past-exhibitions/creatures-of-light/videos/making-of-creatures-of-light>

フロリダ自然史博物館、写真展「海洋無脊椎動物」を開催

写真家のスーザン・ミドルトン氏は、カリフォルニア科学アカデミーで30年以上にわたって、自然界の希少生物と絶滅危惧種の生物を専門に写してきた。フロリダ自然史博物館で開催中の写真展「海洋無脊椎動物」では、彼女が写してきた写真を通じて、海に棲む無脊椎動物の生物多様性、科学そして美しさを紹介している。

会期：2012年10月13日～2013年4月14日

Spineless: Portraits of Marine Invertebrates - The Backbone of Life in the Sea.

Florida Museum of Natural History, Gainesville.

<http://www.flmnh.ufl.edu/exhibits/limited-time-only/spineless-the-backbone-of-life-in-the-sea/>

ハーバード大学自然史博物館、軟体動物の生態展を開催

ハーバード大学には、比較動物学博物館、ハーバード大学植物標本館と鉱物学・地質標本館の三館の自然史系博物館があり、ハーバード大学自然史博物館という一つの建物にある。現在、カタツムリ、二枚貝、イカや海洋無脊椎動物といった軟体動物の進化と生態を紹介した企画展が、ハーバード大学自然史博物館で開催されている。

会期：2013年2月18日～2014年2月

Shelled Masters of the Marine Realm.

Harvard Museum of Natural History, Cambridge.

<http://www.hmn.harvard.edu/press-room/mollusks-shelled-masters-of-the-marine-realm.html>

■ 常設展示

スミソニアン国立自然史博物館、恐竜展示をリニューアル

このほどアメリカの代表的な億万長者であり、実業家のデービッド・H・コッチは、3500万ドルをスミソニアン国立自然史博物館の恐竜展示のリニューアルのために寄付した。2019年に完成する新しい恐竜展示は展示規模は約2,300㎡を計画している。現在の恐竜展示は工事が始まる2014年春まで見ることができる。総工費：4500万ドル。少年時代から恐竜の愛好家でもあるコッチ氏は2006年にもニューヨークのアメリカ自然史博物館の「デービッド・H・コッチ記念恐竜展示」の新設に2000万ドルを寄付している。

David H. Koch Hall of Dinosaurs.

Smithsonian National Museum of Natural History.

<http://www.mnh.si.edu>

■ 人員削減と研究活動の危機

フィールド自然史博物館、研究者に退職勧奨

2013年3月29日にフィールド自然史博物館は、27人の正職員である研究者のうち、半分以上の16人の研究者に対して、早期退職を勧告した。16人はいずれも55歳を過ぎ、また10年以上勤務している職員が対象とされ、同館にとって100万ドルの人件費が削減できるとしている。さらに、他の部門からも200万ドルの削減策を打ち出しており、総額で500万ドルの経費削減をまくろんでいる。2013年5月10日が回答期限としているようだ。

The Field Museum, Chicago.

<http://fieldmuseum.org/>

■ 事件簿

パリ自然史博物館で展示中の象牙が不審者によって切断

2013年3月30日未明にパリ自然史博物館の古生物学・比較解剖学展示館で、展示中のゾウの全身骨格展示からキバがノコギリで切断されて、持ち去られる事件が起きた。事件は午前3時頃に起き、警報機のアラームで警備員が事件を知り、警察に通報。20歳台の容疑者は同日中に逮捕。同館近くの路上での警察の職務質問の際に、切り取られた象牙は所持品の中から発見。切断に使われたノコギリも館内から発見された。象牙やサイの角は闇市場で高値で取引されており、警察によると盗難にあった象牙も闇市場に流れる計画だったようだ。

Muséum national d'Histoire naturelle. Paris.

<http://www.mnhn.fr/le-museum/>

List of special
exhibition!

5月6月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
札幌市青少年科学館	サイエンジャーのワンダーランドGW2013	5月3日～5月6日
釧路市こども遊学館	特別巡回展「光の謎を解き明かせ！」	5月16日～7月7日
牛の博物館	牛の博物館収蔵品展－牛の浮世絵	4月27日～6月2日
	発掘された奥州市展（平成24年度市内発掘調査）	6月8日～6月17日
仙台市天文台	宇宙物語5～そらものがたり～	5月1日～6月30日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「色とりどりの星」	4月1日～5月31日
	ホワイエ企画展「スペースリング」	6月1日～8月31日
産業技術総合研究所 地質標本館	第3回火山巡回展「霧島火山」 －ボラ（軽石）が降ってきた！新燃岳の噴火とその恵み－	4月16日～5月31日
日立シビックセンター 科学館	企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」	4月13日～6月23日
那須塩原市那須野が原 博物館	特別展「東京国立近代美術館工芸館名品展Ⅲ 素材の美－木工・竹工・金工・ガラスの世界－」	4月27日～6月30日
群馬県立自然史博物館	第42回企画展「サンゴ－共生の海・ささえあう生命－」	3月16日～5月12日
鉄道博物館	模型でたどる鉄道史～1号機関車から“スーパーこまち”まで～	3月9日～6月10日
埼玉県立自然の博物館	企画展「オオタカは大きくない～鳥たちの世界～」	1月19日～6月9日
	企画展「新参者昆虫図鑑－多様な埼玉のいきもの－」	6月22日～9月1日
千葉市科学館	企画展「いきものから学ぶロボット展～ヒントは彼らの中にある！～」	4月26日～6月2日
千葉県立中央博物館	ナッツ&ベリー－千葉の名産から世界の逸品まで－	3月16日～5月12日
鴨川シーワールド	高橋俊男氏製作 世界の海獣模型展	3月15日～9月15日
NHK放送博物館	テレビ60年 テレビ美術の世界	4月2日～7月7日
府中市郷土の森博物館	企画展 大西浩次 星景写真展 「天・空の記」	4月20日～9月1日
多摩六都科学館	GW特別イベント「ロクト・ロボットパーク2013」	4月27日～5月6日
はまぎんこども宇宙科学館	特別展「はやく見たい！さきどり!!うちゅうカレンダー」	4月27日～5月6日
横須賀市自然・人文博物館	企画展「横須賀製鉄所は何をのこしたか？ ～横須賀製鉄所のDNAを受け継ぐものたち～」	3月2日～5月31日
新江ノ島水族館	未来に残したい、鎌倉の生物遺産	4月3日～6月2日
	5月のテーマ水槽 「春のレジャーといえば潮干狩り～干潟の生き物に会いに行こう～」	5月1日～5月31日
黒部市吉田科学館	特別展「巡回展 電気の道」	6月8日～9月8日
富山市科学博物館	企画展「アイデア浮かぶ科学の広場」	6月8日～7月6日
飯田市美術博物館	企画展「なんでもかんでもカタツムリ！－飯島國昭コレクション－」	6月29日～9月1日
岐阜県博物館	☆時の輝き☆～からくり・おもしろ古時計展～	5月25日～6月30日
中津川市鉱物博物館	科博コラボ・ミュージアム in 中津川「中津川の鉱物」	3月23日～5月19日

開催館	展覧会名	開催期間
東海大学海洋科学博物館	屋台水族館	4月27日～5月6日
	変わりコイノボリ掲揚	4月1日～5月6日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「ひらめき！パズルわーど ～ばずーる博士からの挑戦状～」	2月23日～7月7日
豊橋市自然史博物館	企画展「愛知県から消えた昆虫」	4月27日～5月19日
	企画展「東三河のジオサイト」	5月25日～6月23日
名古屋市科学館	ドラえものの科学みらい展	3月16日～5月6日
	国際宇宙展示会	6月2日～6月9日
トヨタ博物館	流線型の時代とクルマたち	4月27日～6月30日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」	4月2日～6月9日
大阪市立自然史博物館	特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」	11月23日～6月2日
さしわだ自然資料館	神於山の自然	6月1日～7月7日
伊丹市昆虫館	企画展「発見！チョウのふしぎ」	5月15日～7月8日
姫路科学館	特別展「トリックアート展2」	4月26日～5月19日
	特別展「夏のむし・ムシ大集合」	6月21日～7月8日
明石市立天文科学館	特別展「都会の星 写真展」	4月13日～5月26日
	特別展「じかんであそぼう」	6月1日～7月15日
橿原市昆虫館	企画展「へび展（仮）」	6月4日～7月15日
出雲科学館	GWサイエンス・フェスティバル	5月3日～5月6日
島根県立三瓶自然館	未来につながる三瓶の自然・隠岐の自然	3月16日～5月19日
倉敷市立自然史博物館	新着資料展2013	4月20日～6月23日
広島市こども文化科学館	北川鉱物コレクション展（仮称）	6月8日～7月7日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	企画展「色★いろ 健康玉手箱」～元気をいろどる色マジック～	2月23日～7月14日
防府市青少年科学館	ソラール開館15周年記念事業 春の企画展「ヘンテコ奇石展」	4月27日～6月9日
	特別展「未来の科学の夢絵画展」	6月15日～6月30日
徳島県立あすたむらんど 子ども科学館	サイエンス玉手箱	4月27日～5月6日
愛媛県総合科学博物館	巡回展「科学捜査展」	4月20日～6月23日
北九州市立自然史・ 歴史博物館	春の特別展 市政50周年記念「北九州市の宝もの」	4月20日～6月16日
佐賀県立宇宙科学館	春の企画展「ピーコロ2013」	3月16日～5月6日
阿蘇火山博物館	春の企画展「阿蘇の草原～阿蘇スタイルの暮らし～」	3月9日～6月30日
宮崎県総合博物館	第33回日本自然科学写真協会写真展	4月27日～6月9日

※札幌市青少年科学館は耐震改修等の工事のため、平成25年5月7日～平成26年4月下旬まで休館。
 なお、休館中は出前科学館等、外に出向く活動を中心に行う予定。

リニューアル情報

キッズプラザ大阪

[更新箇所] 5階科学コーナー「からだの科学」「ボールの科学」

[更新内容] 世界初、生きた人間の動きを3Dモーショングラフィックで再現した解剖学書「teamLabBody」が、博物館展示として初登場。骨格の高精度な形態やモーションを自らの動きにあわせて確認することができるインタラクティブな展示物です。他にも、「血管ズーム」や「ほねほねスキャン」など、血液の動きが観察できたり、体内の臓器のしくみがわかる展示物が大集合!また、従来より展示されている、ボールを転がす人気展示「レースウェイ」もバージョンアップしました。

[公開日] 平成25年3月22日

[工事期間] 平成25年3月4日～3月21日



北九州市立自然史・歴史博物館

[更新箇所] 北九州市制50周年・開館10周年記念リニューアル

[更新内容] 恐竜骨格標本等を展示するアースモールに、史上最大の翼竜ケツアルコアトルス他、新規標本を展示し、あわせて生きて動き回った恐竜や翼竜の様子を体感できる360インチの巨大映像演出も新設。恐竜ロボットで人気のエンバイラマ館に、最新学説に沿った羽毛恐竜や突風など、来館者が直接体感できる演出を追加するなど、より多くの市民に愛され進化し続ける博物館を目指しリニューアルを行いました。

[公開日] 平成25年3月23日

[担当者] 株式会社丹青社 ほか

[総工費] 約3億円



鹿児島市立科学館

[更新箇所] 2～4階展示場

[更新内容] 桜島上空を疑似飛行体験できる「桜島スカイサイクル」や直径2mの半球体に太陽の映像を映し出す「さわれる太陽」など体験型の装置で鹿児島や宇宙の魅力について楽しく学ぶことができます。拡充したサイエンスラボでは科学劇場を新設しました。実験ショーが毎日開催される他、科学工作が自由に楽しめる「だれでも工房」など参加体験型の展示設備が充実しています。

[更新面積] 2,223㎡

[公開日] 平成25年3月26日

[準備期間] 平成24年9月3日～平成25年3月25日

[担当者] 株式会社トータルメディア開発研究所

[総事業費] 約3億5千万円



上越科学館

[更新箇所] 常設展 Gゾーン

[更新内容] ゾーンタイトルを「生命の進化と環境」と改め、動く大型恐竜ロボットを設置。生命の進化・環境・エネルギーについて理解を深める場となります。

[公開日] 平成25年3月30日

[工事期間] 平成25年1月22日～3月15日

[担当者] 株式会社謙信堂、株式会社乃村工藝社



先端技術館@TEPIA

[更新箇所] 常設展

[更新内容] 医療・福祉・環境とエネルギーに焦点をあて、展示物を約半数入れ替えました。テーマ展示では「スマートコミュニティ」のあらましと最新の取り組み事例を紹介します。

[公開日] 平成25年4月10日

[準備期間] 平成25年3月4日～4月8日

[担当者] 株式会社電通テック



文化庁長官より感謝状が贈られました

平成 25 年 3 月 25 日東京文化財研究所において開催された「第 7 回東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」において、その構成団体に対する文化庁長官からの感謝状が、亀井委員長（東京文化財研究所長）により贈呈されました。



東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会は文化庁の要請により、平成 23 年 4 月に文化財・美術関係諸団体等が結集して結成され、当協議会も結成当初からその構成団体となってきました。救援委員会は 2 年間の活動を終えこの 3 月末をもって解散したところですが、今回の救援委員会の活動で、文化財等の「等」の中には自然史標本資料等が含まれることが明確化され自然史系博物館関係者の活動の裏付けとなったことは、今後の救援活動だけでなく関係組織間の連携協力に向けた大きな成果であったと思います。全科協としても被災館への見舞金等の対応を行ったところですが、加盟館園による個々の活動も含め多くの皆様にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。なお、救援委員会は解散しますが、被災地域の復興はまだまだ続いており、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸課学芸員)

田代 英俊(科学技術館企画広報室長)

畠山 泰英(株式会社キウイラボ代表取締役)

平濱美紀子(ディスカバリーパーク焼津主任)

高尾 敏史(国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課(担当：園山)

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9898

発行日 平成 25 年 5 月 1 日

発行 全国科学博物館協議会 ©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 株式会社セイコー社